

【平成30年度 災害福祉広域支援ネットワーク構築セミナー】

2018. November.6

平成30年7月豪雨災害における
群馬県災害派遣福祉チーム（ぐんまDWAT）の活動

群馬県社会福祉協議会 施設福祉課
主幹 鈴木 伸明

● DWAT活動派遣について

8/5～8/13までの9日間、岡山県知事からの応援要請に基づき、群馬県災害派遣福祉チーム(ぐんまDWAT)が、派遣され、倉敷市立蘭小学校にて、12名のメンバーが支援活動に参加いたしました。

また、地元・群馬から情報サポート、助言等を含め、3名のDWATメンバーにバックアップをいただきました。

◆ 支援者が大事にしたこと

- ①被災者中心
- ②地元主体
- ③連携・協働

◆ チーム編成について ……発災から1月

- ①女性支援者の帯、②精神保健福祉士の配置、
- ③保育士の配置

● ぐんまDWATの活動～子どもへの支援

蕨小学校においても学習支援的な活動はありますが、遊びの場がないことも、子どものストレスの要因かと…。

数日間、議題には上がっているものの具体的な解決には至っていないのが、はがゆく、悔しくもありました。

その一方、①被災者中心、②地元主体、③連携・協働の支援の3原則を大事にしながら、この課題と向き合い続けました。

その結果、学習支援以外のこども支援プログラムとして『子どもの遊び場』(仮)を実施することに…。

● もう1つの課題

⇒ ぐんまDWAT撤退後、岡山DWATをどう支えるか

■ 『子どもの遊び場』(仮称)

ぐんまDWAT派遣メンバーに保育士を配置していたため、岡山DWATとCAPPO、PWJと連携しての企画。

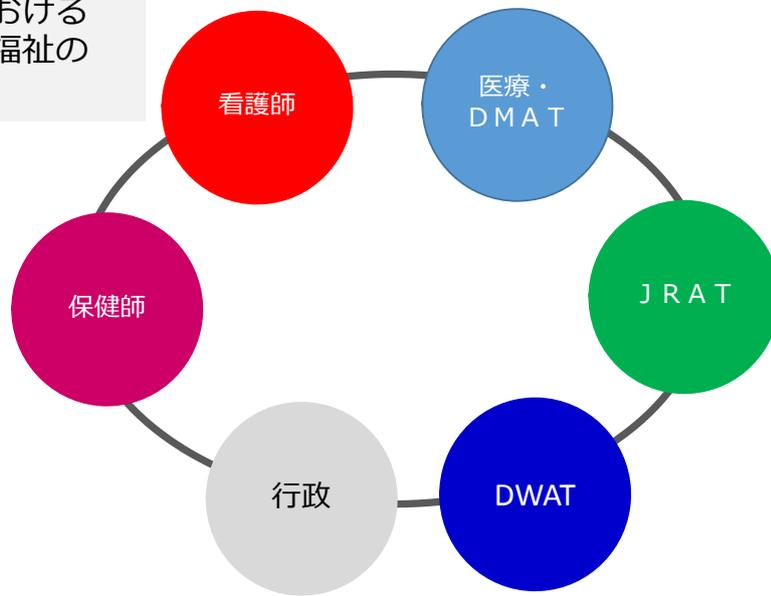
子ども達の『すっごく楽しかった!』、『久しぶりに走った。』等の言葉がとても印象的でした。

また、行政担当者からも、『子ども達が元気に走り回ってました。短期間で、よく企画できましたね。ありがとうございました。』との声も寄せられました。

*企画は3日間かけて、行政&関係団体と調整の上、実施しました。

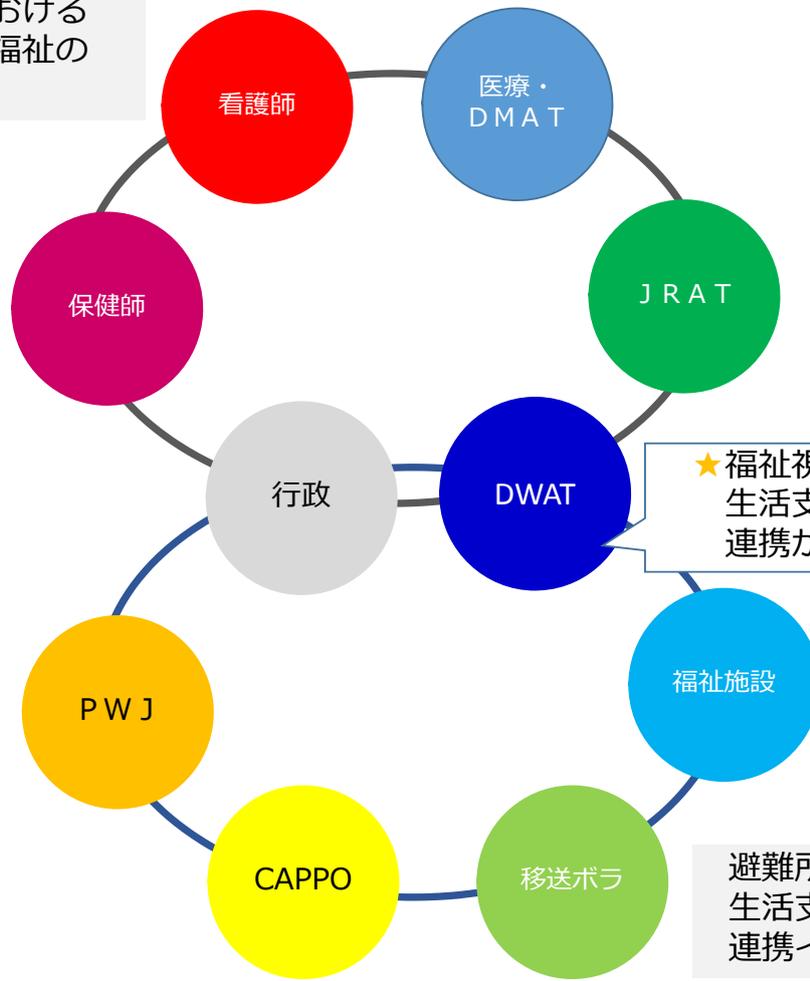


避難所支援における
保健・医療・福祉の
連携イメージ



★福祉専門職だからこそ、
他の専門職種とつながり、
連携が図れた。

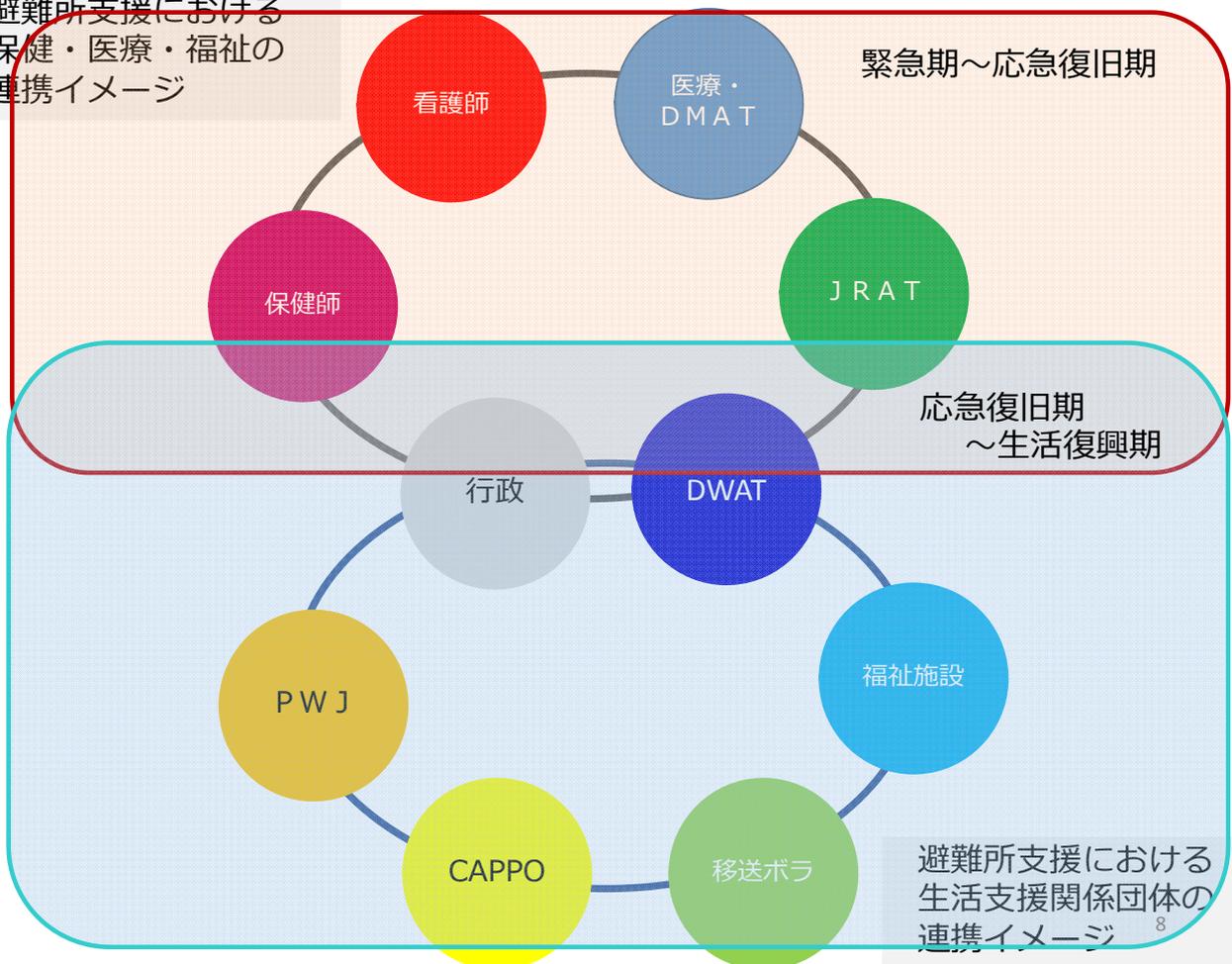
避難所支援における
保健・医療・福祉の
連携イメージ



★福祉視点だからこそ、
生活支援系の団体とも
連携が図れた。

避難所支援における
生活支援関係団体の
連携イメージ⁷

避難所支援における
保健・医療・福祉の
連携イメージ



避難所支援における
生活支援関係団体の
連携イメージ⁸

●災害派遣福祉チーム（DWAT）活動に関して改善が必要な点

- ①活動期間中のコーディネーターの配置を希望。
- ②避難所にどのような団体が、どんな支援に入っているかが整理されていたら、ニーズに合わせた連携が図れた。
- ③避難者に関する情報以外（施設管理に関する鍵の所在、校内放送設備等）のことについて、知り得た情報を共有するボードがあったら良かった。
- ④チーム内の役割分担、次チームへの引継ぎ、情報共有のあり方
- ⑤連絡方法（LINE、Messenger等）、無線の活用方法
- ⑥子どもと遊ぶ小道具などを持っていけば良かった。

9

●災害派遣福祉チーム（DWAT）が関わって解決できた事例

- ①被災者が利用していた介護サービスを発見し、担当ケアマネージャーにつなげた。
- ②体育館に置かれていた車いすを洗い、利用できるようになった。
- ③分館の避難者の方について、当面の看護や見守り体制をつくることができた。
- ④高齢者世帯の方で、今後のことを話し合うのが困難であった世帯に対し、父、息子と別々に話を聴くことができ、双方の考え方をキャッチできた。
- ⑤避難所生活に飽きてしまった子ども達の遊び場をつくり、ストレス発散の機会につながった。

10

●災害派遣福祉チーム（DWAT）が関わって解決できなかった事例

- ①被災者から生野菜が食べたいとの希望（⇒炊き出し支援予定の岡山DWATへ引継ぎ）
- ②メンタルバランスの崩れていた方、一人で一日中座ったままのお年寄りについて、声をかけた以外は、後続へ引継ぎ。
- ③校舎避難の方について、医療・福祉とつながった方が良さそうであったが、必要と感じてもらえず、明確な方針を地元行政につなぐことができなかった。
- ④ストレスレベルの高い方（異性）への介入
- ⑤対象としていた児童の支援は出来ず、岡山DWATへ引き継いだ。
- ⑥兄妹喧嘩の激しい子を持つ母親への介入（⇒CAPPOに引継ぎ）

11

●群馬県での発災時に活かせること

- ①デイサービスのような1時間程度で体操やレク、ゲームを行うことで、高齢者や子どもの分け隔てなく、避難生活のストレス軽減につながるのではないかな。
- ②要支援者以外にも援助や支援が必要な方がいるということ。
- ③避難所運営の方や使える施設、施設管理等を、平時の活動として地元に還元していく。
- ④DWATだけでなく、他団体・他職種との連携。平時からのつながりづくり。
- ⑤被災者が災害の情報と支援の情報をどう受け取るか。

12

●災害派遣福祉チーム（DWAT）の活動への支援・協力

（1）企業の協力

- NTTドコモ 群馬支店 ⇒ **企業の社会貢献**
 - ・携帯電話、Wifi ルーターの無償貸与
- 東武トップツアーズ 高崎支店
 - ・宿泊ホテル & JR券の手配、レンタカーの確保
 - ・派遣オペレーションのサポート

（2）保険会社の協力

- 傷害保険 ⇒ **既存の商品を読み変え対応**
 - ・24時間補償タイプ（死亡、入院、通院）
- 損害賠償保険 ⇒ **DWAT用に既存の商品を読み変え対応**
 - ・対人及び対物補償（1億円まで）

13

●災害派遣福祉チーム（DWAT）の活動を通しての気づき

（1）専門職の視点を持つチーム

- ・他の専門職チームとの連携
（DMAT、DHEAT及び保健師、JRAT等）
- ・なんでも相談所の運営（ワンストップの役割）
- ・避難所における生活環境の整備

（2）福祉の視点を持つチーム

- ・避難所支援の多様な団体（ボランティア団体を含む）との連携
- ・集いの場の運営

（3）気づきや課題

- ・要配慮者 = 高齢者や障害者ではない
- ・専門職だけの対応を考えない
- ・現地活動におけるコーディネーターの必要性
- ・後方支援チームやロジスティックスの必要性

14

○協働・連携を意識する ～ 『桃太郎』のお話

桃太郎と言えば日本のおとぎ話の一つですね。

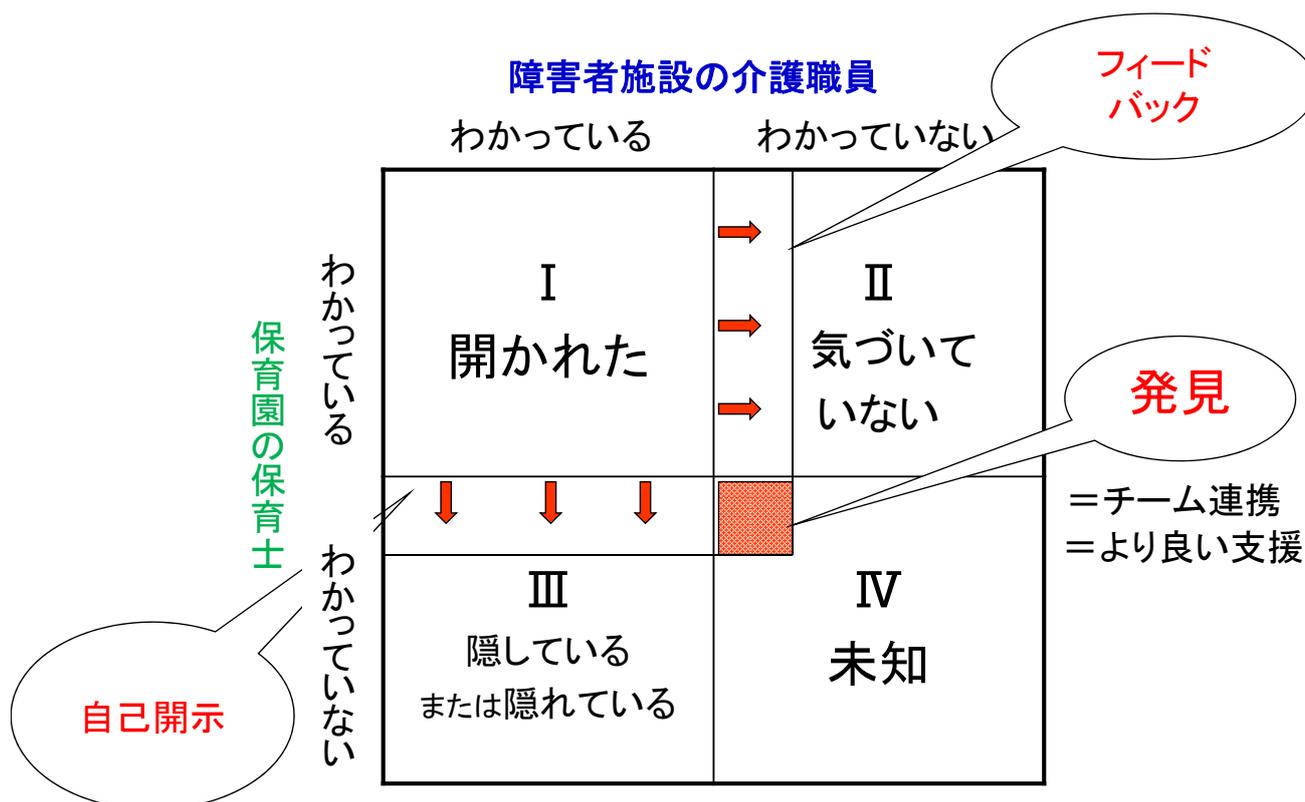
そして桃太郎と一緒に鬼退治を行ったのは、犬と猿とキジということはあるのですが、なぜ、この3匹だったのでしょうか？

それぞれの役割を考えると、犬は忠義の象徴、猿は知恵の象徴、キジは勇気の象徴とされており、役割として勇気の象徴であるキジが偵察役、知恵の象徴である猿が戦略を練り、犬が戦略を忠実に実行するという流れになるのではないかとされています。

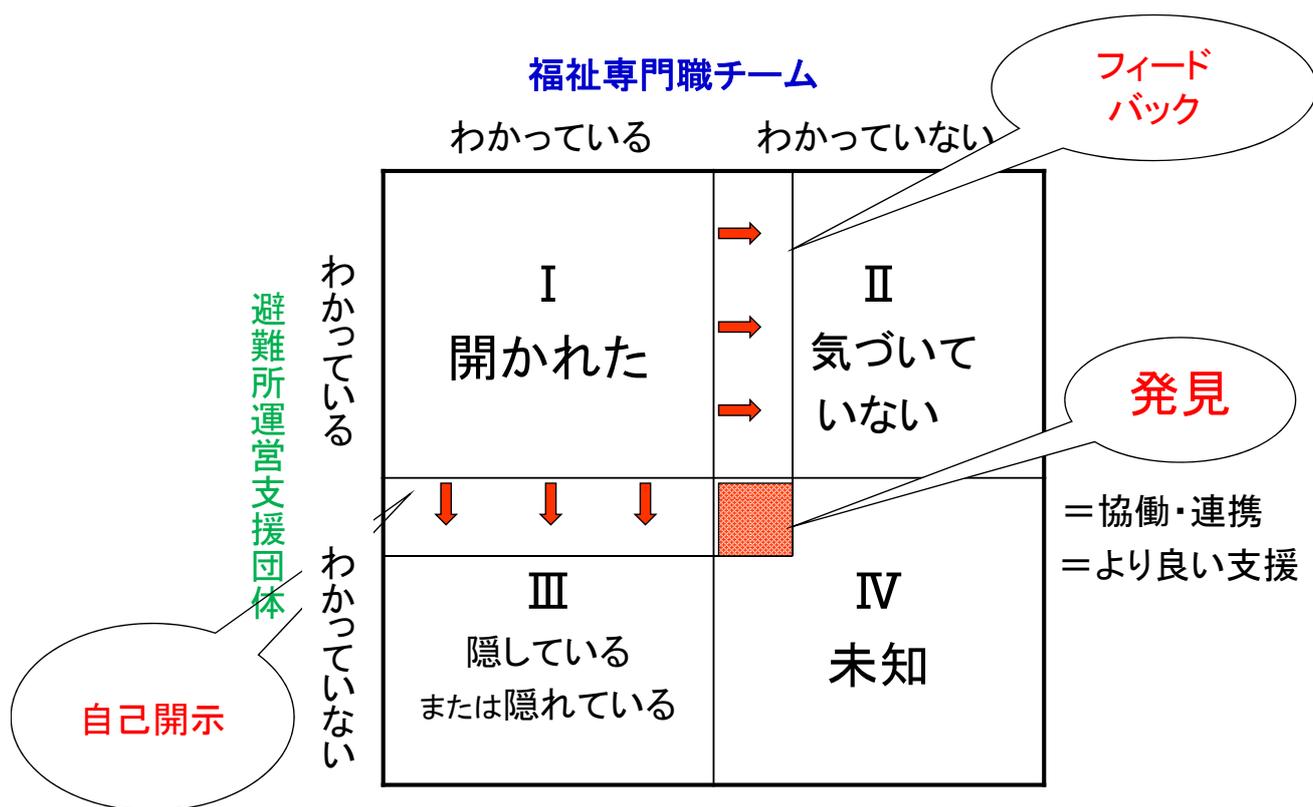
私たち福祉チームに当てはめたとき、自分たちに出来ないことも、他の専門職や他団体との連携を意識することで、より良い支援を展開できるヒントがあるのではないのでしょうか？



○ぐんまDWA Tの取り組み（多職種連携）



○ぐんまDWAT先遣隊の取り組み（他職種との連携）



17

●災害派遣福祉チーム（DWAT）の課題と今後の取り組み

- (1) チーム員の確保と資質の向上
 - ・先遣隊のブラッシュアップ化
 - ・登録員に対する養成研修の開催
 - ・新規メンバーの登録研修
 - ・隣県研修との内容の標準化
- (2) 関係機関との連携について
 - ・保健師チームとの連携
 - ・他職種チームとの勉強会（※Dシリーズ連携会議）
 - ・チーム員の所属法人と周辺の社会福祉法人との連携
- (3) 平時の取り組みへの転化について
 - ・DWATの広報（PR用パンフの作成）及び情報発信機能の強化
 - ・地域防災と共に行える取り組み
 - ・防災教育や福祉教育として行えること
 - ・民生委員、自主防災組織との連携
 - ・防災カフェ等、サロン活動等と並行して行えること 等



18